

14:22 それからすぐ、イエスは弟子たちを強いて舟に乗り込ませて、自分より先に向こう岸へ行かせ、その間に群衆を帰してしまわれた。

14:23 群衆を帰したあとで、祈るために、ひとりで山に登られた。夕方になったが、まだそこに、ひとりでおられた。

14:24 しかし、舟は、陸からもう何キロメートルも離れていたが、風が向かい風なので、波に悩まされていた。

14:25 すると、夜中の三時ごろ、イエスは湖の上を歩いて、彼らのところに行かれた。

14:26 弟子たちは、イエスが湖の上を歩いておられるのを見て、「あれは幽霊だ。」と言つて、おびえてしまい、恐ろしさのあまり、叫び声を上げた。

14:27 しかし、イエスはすぐに彼らに話しかけ、「しっかりしなさい。わたしだ。恐れることはない。」と言われた。

14:28 すると、ペテロが答えて言った。「主よ。もし、あなたでしたら、私に、水の上を歩いてここまで来い、とお命じになってください。」

14:29 イエスは「来なさい。」と言われた。そこで、ペテロは舟から出て、水の上を歩いてイエスのほうに行った。

14:30 ところが、風を見て、こわくなり、沈みかけたので叫び出し、「主よ。助けてください。」と言つた。

14:31 そこで、イエスはすぐに手を伸ばして、彼をつかんで言われた。「信仰の薄い人だな。なぜ疑うのか。」

14:32 そして、ふたりが舟に乗り移ると、風

がやんだ。

14:33 そこで、舟の中にいた者たちは、イエスを拝んで、「確かにあなたは神の子です。」と言つた。

14:34 彼らは湖を渡ってゲネサレの地に着いた。

14:35 すると、その地の人々は、イエスと気がついて、付近の地域にくまなく知らせ、病人という病人をみな、みもとに連れて來た。

14:36 そして、せめて彼らに、着物のふさにでもさわらせてやってくださいと、イエスにお願いした。そして、さわった人々はみんな、いやされた。

イエス様と弟子たちの思い出はたくさんあったでしょうが、マタイはこの出来事を残すことを選択しました。そこには不思議以上の信仰的は意味があつて、弟子たちが大いに教えられたからです。

イエス様は弟子たちを愛しておられましたが、時にはひとりになって、御父との交わり、すなわち祈るためにお一人になられました。またイエス様がいなければ弟子たちは、「恐ろしさのあまり、叫び声を」上げるほど気弱な者たちであったことがわかります。そしてそれ以上に、この湖上の出来事は印象深いものでした。

弟子たちはイエス様がそばにいるのに気づかず、幽霊と勘違いしてしまいました。私たちも同じように、ともにいてくださるイエス様に気づかないままではなく、交わる者となりましょう。

またペテロのように、イエス様がおられるなら、そのことを確信したいと思うこともあります。イエス様はそれをお許しになりますが、ペテロは風を見て恐くなりました。私たちも、主を見るではなく、問題を見てしまうことで、むしろ沈んでしまうことがあるのです。問題は決定的ではなく、主との関係が決定的なのです。

問題解決はさておいてでも、主イエスをしっかりと見上げましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

